

<福島県知事賞>

日本を支える十円

本宮市立白沢中学校 3年 山崎 華南

幼い頃、買い物をしに百均に行った。全ての商品が百円であるため百均と呼ばれているのだが、支払わなければならないのはなぜか百八円。百均なのに百八円とはこれ如何にと感じながら購入したのをよく覚えている。

小学生になり、授業や講話で「税金」というものを知った。我々の生きる社会の様々な場面で役に立っているらしい。例えば、自分が今学校で使っている机や椅子なども税金でできているのだ。税金を払うことは「納税」と言い、国民の三大義務の一つである。

納税と聞くと、大人だけが関係しているイメージがどうしても大きい。だが実は我々未成年、ましてや幼児でも日常的に納税の義務を果たしているのだ。

その中でも、我々にとって最も身近にある納税と言えば、やはり「消費税」と呼ばれるものだろう。これは、商品を購入したりサービスを受けた際に消費者が負担する税金だ。現在の消費税率は10パーセント。私が幼い頃は8パーセントだったため、百均の商品を購入する際に支払う金額は百八円であったが、現在は百十円支払わなければならない。

ここで、幼い頃の私の疑問が解決された。百均の商品がなぜ百八円であったのか。それは、消費税が付与されていたからであった。そして私は、幼いながらに納税をしていたのである。つまり、私が納めた八円はどこかで誰かの役に立っているのかも知れない。そう考えると、少し胸が熱くなった。

また、税金はなんと学校や病院の設備の他にも役立っているだけでなく、社会保険や警察、消防費など、我々の暮らしの安全を保つこともできる。もしこれらが税金によりまかなわれなくなってしまうと、公共施設が整備されなくなるだけでなく、病院に行く度に高額の治療費や薬代を支払う必要が出てきたり、警察や消防が機能しなく

なる可能性もあるのだ。つまり、税金は我々の生活を支えてくれるとても頼もしい存在であり、これからも国民が納めて国民全体で国を支えていかなくてはならない。

ある日、また百均に買い物をしに出向いた。レジで会計をしていたのは、小学生くらいの子供。おもちゃを買っていた。レジ打ちの店員さんに手渡すのは商品の値段である百円、そして消費税の十円。「あ、こんな小さい子も日本を支えているんだな」と心の中で思った。私も会計をする。私も日本を支えるべく、百円玉と十円玉を財布から取り出す。

普段通っている学校、病院の診療、百均までの道までもが、税金によってできている。これからも、税金によってできている。これからも、税金で我々の生活はさらに豊かになるだろう。この手の中にある十円。たったの十円と思われるかも知れないが、どこかで日本を支えてくれると信じて受け皿に置いた十円玉は、いつもより少しばかり輝いて見えた気がした。